

心と身体を通してスポーツの魅力を伝える

スポーツを遊ぶ

技を競ったり体を動かす楽しさだけでなく、今やスポーツには、“遊ぶ”楽しさが求められているとデサントの中西社長はいう。

インターネットなどの発達でさまざまなスポーツを観る機会が増えるなか、選手のファッションなスタイルに憧れ、おしゃれ感覚でジョギングやゴルフを始める人や、定年後にスポーツで若返りをめざす人など、スポーツをする動機も変わってきている。「近ごろはギャルファー（ゴルフをする若い女性）やゴルフ婚（ゴルフを通じた婚活）といった言葉まである」と中西社長がいうように、今やスポーツの楽しみ方は十人十色。こうしたニーズにも応えることで、スポーツを幅広い世代のライフスタイルに浸透させ、健康な身体と心づくりに寄与していきたいという。

とはいえ、少子化の影響でスポーツ人口は年々減少傾向にあるとも。そこで同社は、毎年有名アスリートを招いて「すこやかキッズスポーツ塾」を開催し、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えている。夏に行われた2泊3日の教室では、テニスやサイクリング、カヤック教室をはじめ、手話などのグループワークを行い、スポーツの楽しさや仲間とのコミュニケーションを深めた。



すこやかキッズスポーツ塾
(平成22年7月 / 福島県・アルツ磐梯にて)

モノづくり企業として

1935(昭和10)年創業のデサントは、総合スポーツアパレル企業として、アスリートの高いパフォーマンスを支える数多くの素材・機能開発を行ってきた。そんな同社にとって、プロスポーツへの支援は欠かせない。ガンバ大阪や阪神タイガース、大阪エヴェッサなどへのサプライをはじめ、様々なプロスポーツチームを応援している。

一方、同社は、大阪商工会議所が中心となって推進する『理科大好き“なにわっ子”育成事業』にも参加。今年は大阪市内の小学校3校で、理科実験を



理科大好き“なにわっ子”育成事業
(平成22年6月 / 大阪市立小路小学校にて)



中西悦朗(なかにし えつろう)氏
昭和23年兵庫県出身。同46年関西学院大学経済学部卒業後、伊藤忠商事株式会社入社。平成19年6月株式会社デサント顧問を経て現職。

通してアパレル企業としてのモノづくりを教える活動も行っている。また、昭和54年にデサントの株式を基本財産とする「石本記念デサントスポーツ科学振興財団」を設立し、以来毎年、スポーツ科学に関する学術的な

調査・研究などへの助成を行っている。

関西伝統文化への思い

現在、大阪は大阪駅北ヤードでのスタジアム建築構想や、来年の大阪マラソン開催など、スポーツ分野からの活性化に期待がかかっている。中西社長はそうした動きにふれ、「スポーツに親しむ機会を増やし、それを大阪活性化につなげるためにも、相応の施設整備は不可欠だろう」という。

また、中西社長は、落語や文楽、歌舞伎、狂言などの伝統芸能通でも知られる。とりわけ落語は、学生時代『古典芸能研究部』に所属し、他大学の学園祭で持ちネタを披露して回ったほど。「上方落語の破天荒な面白さが好き。苦労も笑いで包み込む関西人の大らかさや強さに魅力を感じる」という。天満天神繁盛亭の建設にあたっては、個人名で積極的に支援もした。そうした経験から、現在、大阪で伝統芸能の鑑賞機会を増やす取り組みが行われていることに大いに期待する。「笑うことはスポーツと同じく健康に良い。それが一緒にできるような活動があってもいいかも」と話す中西氏に、関西人の大らかさを見る思いがした。

株式会社デサント / 大阪市中央区平野町4-2-16(大阪オフィス)
スポーツウエア等の製造および販売。1935(昭和10)年創業。
資本金38億4,620万円。年商760億円(2010年3月期・連結ベース)。従業員715名。